

富山県における肥前陶磁器の流通

高梨 清志（富山県埋蔵文化財センター）

富山県における近世遺跡の調査は高速道路などの大規模発掘の例外を除けばほとんど行われておらず調査事例はまだ少ないので現状であり、今後の研究の進展が期待される。

陶磁器の組成の変遷

遺跡の種別等により違いはみられるが、全体的な傾向としては瀬戸美濃の製品が少なく、越中瀬戸の占める割合が多い。特に近世後期の遺跡に関してはその傾向が伺える。肥前陶磁器については梅原胡摩堂遺跡など一部の遺跡についてはⅠ期から出土例があるがⅣ期以降に増加する。城下町・門前町では肥前、農村遺跡・生産地周辺遺跡では越中瀬戸が多くなる傾向がみられる。また、近世土師器は城下町など都市遺跡で出土し、農村部では見られない。

地方窯

越中瀬戸焼は16世紀後半に、尾張国瀬戸から陶器工人を招来し開窯した施釉陶器窯である。本格的な施釉窯としては、日本海側では最古と言われ、江戸時代を通じ藩の御用窯として前田家の庇護の下、茶道具の製作を中心に発展し、瓦や日常雑器などを生産した。

これまでの研究成果は文献史料分析と考古学的分析の2点から進められてきた。前者は窯関係古文書に記載されている発給者や発注時期の特定などで、後者は表採資料の整理や瀬戸美濃との年代対比などである。操業時期については、文献から地元に残る前田安勝文書の分析から天正16・17年としている。操業時期については、文献では天正16・17年としている。考古学的には天正11年に落城した弓庄城跡出土品に同製品があることから、落城以前の操業が指摘されている。

宮田進一氏は窯表採資料や消費地の調査成果から越中瀬戸の変遷とその分布を3期に分けている。その分布域は、西は石川県加賀市、南は岐阜県飛騨市、東は北海道まで分布し、その中心は金沢市から上越市までとしている。

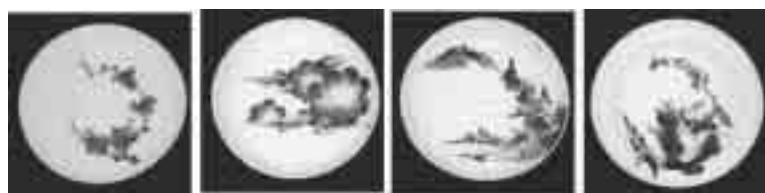
Ⅰ期：（16世紀末～17世紀初め） 大窯製品には碗、皿、壺、擂鉢がある。これらは瀬戸美濃の器種・釉薬を模倣する傾向が見られる。分布域の中心は、西は金沢市から東は上越市までである。

Ⅱ期：（17世紀前葉～中頃） 製品には碗、皿がある。皿は肥前お皿を模倣したと考えられる。分布域の中心は、1期同様西は金沢市から東は上越市までである。

Ⅲ期（17世紀後半～18世紀前半） この時期の資料はほとんど知られていない。製品には碗、皿がある。これまでの調査でもこの時期の出土量は減り、肥前に取って代わられるようである。分布域は県内中心となり18世紀になると県外ではほとんど見られなくなる。

水中遺跡

平成7年5月に石川県舳倉島沖から黒部漁港所属の漁船により4枚の完形品の染付皿が引き揚げられた。1680年代のもので直径約35cmを計る。現在、黒部市美術で管理保管されている。



近世陶磁器出土割合一覽

梅原胡摩堂遺跡一括資料一覽

施 用 胡 塗 藥 跡	肥前陶器 時期区分					
	I	II	III	IV	V	不明
肥前陶器	278	33.7%				
肥前原始器	157	19.0%				
瀬戸・美濃	37	4.5%				
越中湖戸	184	22.3%				
その他	169	20.5%				

合計		823	100.0%			
黄 球 体 質 前 期	肥前陶器	48	17.5%			
	肥前磁器	115	38.1%			
	瀬戸・美濃	4	1.5%			
越後丹波	43	15.0%				
その他	65	23.0%				
合計	275	100.0%				
肥前陶磁器 時期区分						
	I	II	III	IV	V	不明
1	14	10	16	21	21	29.2%
2	15	29.2%	33.3%	33.3%	0.0%	15.0%
3	6	8	71	9	21	0.0%
4	0.0%	3.2%	7.0%	61.1%	7.8%	18.3%

		I	II	III	IV	V	不明	
肥前陶器	20	22.5%	0	7	3	0	7	
肥前磁器	41	46.1%	0.0%	15.0%	35.0%	15.0%	0.0%	35.0%
		0	2	3	8	12	16	
		0.0%	4.9%	7.3%	19.5%	29.3%	39.0%	
戸戸・美濃	2	2.2%						
中州・伊賀	7	7.5%						
その他	19	21.2%						
合計	89	100.0%						

善 德 寺 前 造 造 田	肥前陶磁器 時期区分					
	I	II	III	IV	V	不明
肥前陶器	64	23.4%	0	12	9	34
肥前磁器	103	37.6%	0	31	62	11
済戸・美濃	8	2.9%	0	0	0	0
越中瀬戸	49	17.9%	0	0	0	0
その他	50	18.2%	0	0	0	0
合計	274	100.0%	0	0	0	0

		肥前陶磁器 时期区分					
		I	II	III	IV	V 不明	
江 戻 路 筋	肥前陶器	52	18.1%	0	11	3	21
	肥前磁器	83	28.9%	0.0%	31.2%	5.6%	40.6%
合 計	芦戻-美濃	9	3.1%	0	2	15	12
	その他	115	40.3%	12.7%	2.3%	18.1%	14.5%
合 計		124	100.0%	0.0%	31.2%	5.6%	40.6%

		肥前陶磁器 时期区分					
		I	II	III	IV	V 不明	
江 戻 路 筋	肥前陶器	52	18.1%	0	11	3	21
	肥前磁器	83	28.9%	0.0%	31.2%	5.6%	40.6%
合 計	芦戻-美濃	9	3.1%	0	2	15	12
	その他	115	40.3%	12.7%	2.3%	18.1%	14.5%
合 計		124	100.0%	0.0%	31.2%	5.6%	40.6%

肥前前磁器 时期区分	
Ⅰ期(1580~1600年代)	IV期(1600~1780年代)
Ⅱ期(1600~50年代)	V期(1780~1860年代)
Ⅲ期(1650~90年代)	

肥前后磁器 时期区分	
I	II
II	III
III	IV
IV	V
肥前前磁器	肥前后磁器
3	18
9.7%	100%
肥前前磁器	肥前后磁器
18	18
100%	100%
1	2
0	0
0	1
0	7
0	6
0	4
0.0%	5.6%
0.0%	38.9%
0.0%	33.3%
0.0%	22.2%
肥前後 通	0
肥前後 通	32.3%
その他	0
その他	0

合計		311	100.0				
区分	施設名	肥前陶磁器 時期区分					
		I	II	III	IV	V	VI
肥前陶器	23	8.9%	0.0%	26.1%	55.6%	8.7%	8.7%
肥前磁器	100	38.6%	0.1	2	34	2	0
瀬戸・美濃	22	8.5%	0.0%	2.7%	31.8%	62.0%	1.0%
諸窯	107	39.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他の	7	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	259	100.0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

肥前陶磁器 時期区分		肥前陶磁器 伸展時期					
区分	施設名	肥前陶磁器 時期区分			肥前陶磁器 伸展時期		
		I	II	III	IV	V	VI
肥前陶器	23	8.9%	0.0%	26.1%	55.6%	8.7%	8.7%
肥前磁器	100	38.6%	0.1	2	34	2	0
瀬戸・美濃	22	8.5%	0.0%	2.7%	31.8%	62.0%	1.0%
諸窯	107	39.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他の	7	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	259	100.0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

被前回問	I	II	III	IV	V	不明	
						0	2
被前回問	13	6.2%				0.0%	0.0%
被前回問	56	26.8%				0.0%	0.0%
漏戸・美濃	11	5.3%				0.0%	0.0%
超中通戸	81	38.8%				0.0%	0.0%
かわらけ	23	11.0%				0.0%	0.0%
その他	25	12.0%				0.0%	0.0%
合計	209	100.0%				0.0%	0.0%

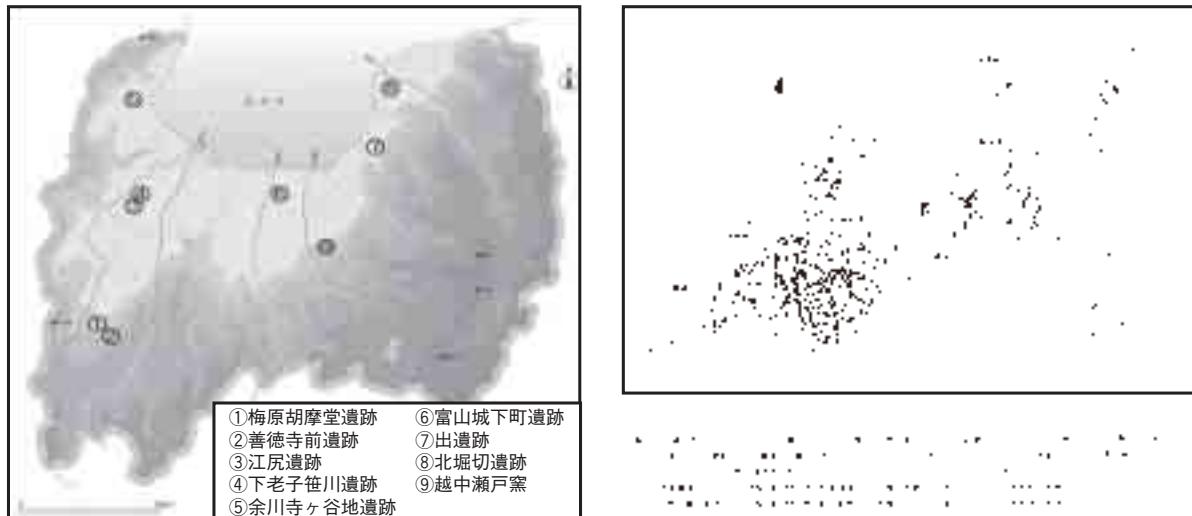
		肥前焼器 時期区分					
		I	II	III	IV	V	不明
肥前焼器	206	10.0%	8	3	0	3	92
肥前焼器	196	16.1%	3.9%	1.5%	0.0%	1.5%	68.5%
合計			0	0	0	17	111 168
漁戸・美濃	0	0.0%					
越中平野	676	62.4%					
その他	5	5.3%					
合計	1083	100.0%					

		前回陶器量 時期区分				
		I	II	III	IV	V
刀	前回量	4	15.1%	0	0	0
刀	前回量	13	50.0%	0	0	0
酒器・羹器		0	0.0%	0	0	0
酒器・羹器		8	33.3%	0	0	0
その他		0	0.0%	0	0	0
合計		26	100.0%	0	0	0

		前回陶器量 時期区分				
		I	II	III	IV	V
刀	前回量	4	15.1%	0	0	0
刀	前回量	13	50.0%	0	0	0
酒器・羹器		0	0.0%	0	0	0
酒器・羹器		8	33.3%	0	0	0
その他		0	0.0%	0	0	0
合計		26	100.0%	0	0	0

富山城跡出土遺物

遺跡名	所在地	遺跡の性格	概要
梅原胡摩堂遺跡	南砺市梅原	中核的農村 寺院	砺波平野の南西部に位置する南北1kmのわたる中近世の集落遺跡。調査区には近世から昭和初期まで続いた旧以速寺跡が含まれる
善徳寺前遺跡	南砺市城端	門前町	旧城端町は真宗大谷派城端別院善徳寺を中心に広がる門前町。16世紀末から現在まで続く
江尻遺跡	高岡市江尻	一般農村	近世から近代の区画溝を伴った屋敷跡を19棟確認。中心時期は16世紀末から17世紀、18世紀、18世紀後半から19世紀である
下老子笹川遺跡	高岡市下老子笹川	一般農村	17世紀から19世紀の農村遺跡
余川寺ヶ谷内遺跡	氷見市余川	一般農村	18世紀から19世紀の農村遺跡
富山藩城下町	富山市総曲輪	城下町	富山城下町絵図から北側は上・中級武家屋敷、南側は町屋敷に相当
出遺跡	魚津市出	一般農村	近世遺物のほとんどが包含層からの出土で16世紀末から近現代までにわたる
北堀切遺跡	黒部市北堀切	中核的農村	近世である上層面からは17世紀後半から18世紀後半にかけての区画溝を伴う掘立柱建物を確認
越中瀬戸窯	立山町瀬戸	窯跡	16世紀後半に、尾張国瀬戸より陶器工人を招来し開窯した施釉陶器である。本格的な施釉窯としては、日本海側では最古と言われる



越中瀬戸の富山県外出土遺跡一覧